

史蹟史料部

2023年5月5日

#30

## 日本人墓地公園

# ニュースレター

### 篠崎護の顕彰碑

<u>ニュースレター#6</u>で日本人墓地公園内にあるメモリアルプラザをご紹介したあと、史蹟史料部に問い合わせが相次ぎました。

### 「篠崎護さんのお墓は日本人墓地公園にあるのですか」

正直なところ、ニュースレター#6 はメモリアルプラザの位置とご寄付の銘版をご紹介するために書いたもので、顕彰碑のうちのお一人である篠崎護については、お名前と役職を載せたのみでしたので、このお問い合わせは、全く予期せぬことでした。

そこで、今回は篠崎護と、ご遺族が日本人墓地公園に お越しくださった時の様子をご紹介します。



篠崎護は 1908 年福岡県生まれで、1932 年に明治大学を 中退し、日本電報通信社に入社。1934年に上海に派遣さ れ、その後に南京、漢口に移りました。1936年に外務省 情報部嘱託としてベルリンに派遣され、1938年にシンガ ポールに転任しました。シンガポールでは日本総領事館嘱 託の報道記者として東方通信社に勤務し、軍情調査や中国 系住民社会に関する情報収集を行っていました。

1940年、英軍の将校からシンガポールの防備に関する 情報を聞き出そうとするなど、スパイ容疑で英海峡植民地 警察特高科に逮捕され、チャンギ刑務所に収監されまし た。

1942年に日本軍によって釈放され、占領時代は昭南特 別市政庁の教育課長、その後厚生課長となり、市政庁の職 員として占領行政に奔走しました。

1942年2月15日、日本軍はシンガポールを占領すると 数日後に、親中国、新英国の華人を狩り出し、多数の若者 を虐殺しました。そうした状況下で篠崎は、カトリックの 司教と協力して数多くのカトリック教徒を粛清場所から逃 したり、抗日活動に関わっていないと証明する2万通~3 万通の特別許可証を発行し、市民を保護しました。そのこ とから、彼は日本のシンドラーと呼ばれていました。

戦後、日本の船舶が再びシンガポールに寄港したのは 1951年のことでした。その「信洋丸」を東洋汽船からチ ャーターし、日本製セメントをシンガポール港に陸揚げし たのが篠崎でした。

篠崎には上陸は許されず、船に留まりましたが、連日 100 人を超す華人が彼を訪問したことがストレイツ・タイ ムズに「Shinozaki Comes Back Singapore」と報じられ たといいます。



The Japanese Scininder Mamoru Shinozaki, often described as the 'Japanese Schindler', was instru-mental in saving many lives in Singapore immediately after the surrender of the British on 15 February 1942. Shinozaki worked with the Catholic Bishop in Singapore, Adrien Devals, to gather a number of Catholics from the so-called "clean-up operation"

assembly points and take them to a church where they were subsequently relased.<sup>3</sup> He also issued between 20,000 and 30,000 [protection cards' to people. This was a card with a stamp saying Special Foreign Affairs Officer of Defence Hoadquarters'; each card stating that the bearer of the pass was a "good" citizen and requesting Japanese soldiers to "please look after him and protect him". According to Shinozaki, these cards were issued to "everyone asking for them" and he "gave hundreds to community leaders to distribute". He made no attempt to find out whether the cards went to communists or anti-Japanese elements or both abst." He was just intent assembly points and take them to a church elements or bad hats."14 He was just intent

on saving lives. Shinozaki helped set up the settle ment of Endau, in nearby Johor state for the Chinese, then three months later. Bahau for Catholics. He visited both settlements regularly and many settlers in Bahau have fond memories of him. How-ever, in spite of the good Shinozaki did and the high regard in which he was held by many, he was also viewed with a degree of suspicion by some. After the Japanes surrender in 1945, the British arrested hin and charged him with espionage tog with other Japanese officials the had been

with other Japanese officials the had been similarly charged with espionage by the British before the war; see Note 6). Shinozaki was held briefly at the Brit-ish Field Security Force headquarters at Balmoral Road in Singapore until some Bahau residents, along with other civilians,

petitioned the British and secured his release. Shinozaki subsequently worked for the British army as an interpreter and served as a key witness, providing evidence for the war crimes trials held in Singapore against the Japanese sol-diers involved in Operation Sook Ching

diers involved in Operation Sook Ching.
My grandfather, Herman de Souza
(Jnr), who worked with Shinozaki in
the Education Department during the
Occupation and later in Bahau, recalled
what Shinozaki said to him in 1942: "I
was in the diplomatic service of the
Japanese, I was trained in Germany,
and I had great ambitions. I was going
to rise in the consulate world. But when
the British interned me in this place, I
had time to think, and I have now only
one ambition. ... My ambition now is to
do good to people. Doesn't matter who
they are." 39

After the war, a letter published in The Straits Times on 19 A made the case for allowing Shinozaki to stay in Singapore. The writer of the letter was my great-uncle, P. F. (Pat) de Souza all kinds of degradations – character-ise him as a great humanitarian and a great gentleman."16

日本人墓地公園の顕彰碑に問い合わせが相次いだことと 時を同じくして、史蹟史料部はもう一件、篠崎護に関する 問い合わせを受けました。

#### 「担当者様

日本人墓地公園のニュースレターで篠崎護の碑文を拝見し ました。そちらに、篠崎護のお墓はあるのでしょうか。ま た、ご遺族の方とは連絡がとれるのでしょうか。

篠崎護は私の大伯父にあたります。シンガポール国立博物 館経由で著作権についてのお尋ねがありました。直系では ないので、お答えすることができない状況です。

現在、マレーシアに在住しております。国境も開きました ので、シンガポールを訪問したいと思っております。|

残念ながら日本人会には、篠崎氏が日本に戻って以降 1991年に亡くなるまでの記録は何も残されていません。 戦後にシンガポールを引き上げられた方々が日本に戻られ てからのご遺族の連絡先は、ご遺族のそれを含めてここに は残されていないのです。

しかし昨年から日本人墓地公園のツアーをご案内してい る杉野元事務局長は、メモリアルプラザに顕彰碑を建てた ご本人であり、篠崎氏ご本人には会っていないものの、同 じ時代を生きた越後屋の福田庫八氏から彼の話を聞いてい たそうです。

2月8日(水)、篠崎氏のご遺族である菅原様が日本人 墓地公園にお越しになり、杉野元事務局長がお話をされま した。



菅原様の母方の祖母が篠崎氏の妹に当たるそうで、 1991年に大阪で篠崎氏が亡くなられた際には、お母様は 篠崎氏の亡くなる直前に会いに行かれたそうです。今回、 日本人墓地公園に篠崎氏の顕彰碑があることを知り、お母 様は大変喜ばれたそうですが、90歳を超え来星は叶わ ず、隣国マレーシア在住の菅原様に託されました。



菅原様がお持ちの『シンガポール占領秘録―戦争とその 人間像』には、著者である篠崎護氏ご本人のサインが記さ れていました。





篠崎氏の顕彰碑をお参りいただきました。



終戦から78年、戦時中当地に滞在していた人の多くが この世を去り、その当時の話を伝え聞いたご遺族も少なく なってきている昨今、日本人墓地公園に所縁のある方も減 りつつあります。

日本人墓地公園は花と緑あふれる憩いの場としてシンガポールの地元の皆様にご来園いただいておりますが、 在留邦人の皆様、ご旅行で来られる方に歴史を伝える場として、管理を続けて参ります。

> 参考文献:「シンガポール日本人社会百年史 – 星月夜の耀 – 」 シンガポール日本人会 2016 年 12 月 23 日発行